

第1回まち・ひと・しごと創生懇談会の概要

日時：6月5日(金)午前9時30分～11時20分

場所：4階会議室

出席団体：

鈴木座長 木更津商工会議所 会頭

江沢委員 木更津市富来田商工会 会長

白井委員 木更津市農業協同組合 総務部長

高浦委員 木更津市6漁業協同組合連絡協議会 事務局長

小出委員 木更津市公共職業安定所 所長

石橋委員 千葉県君津地域振興事務所 所長

前野委員 木更津工業高等専門学校 校長

丸橋委員 学校法人君津学園 清和大学 教授

麻生委員 金融懇談会 千葉銀行木更津支店 支店長

中島委員 連合千葉南総地域協議会 君津地区連絡会 幹事

大橋委員 株式会社ジェイコム千葉 木更津局 局長

平野委員 木更津市区長会連合会 会長

滝口委員 木更津市社会福祉協議会 会長

平野委員 木更津市保育協議会 会長

白石委員 木更津市PTA連絡協議会 会長

各委員が日頃取組まれている活動の実態を踏まえ、「地方創生を推進するための視点」、「地域一体となって進めるための視点」など、自由に意見を頂いた。【以下、意見の概要】

・木更津は、非常に可能性のある楽しみなまち。ただ可能性というのは磨かなければならない。この可能性を形にしていきたい。

・総合戦略の策定にあたっては、いかに具体的な目標を立て、どのような成果指標を出すかと言う部分がポイントになる。できるだけ焦点をしぼり、より具体的なものを入れられればよいのでは、と考えている。

・地方創生の推進は、行政だけでは限界がある。いかに市民の方々に問題意識を持って参加いただけるかと言うことが課題。具体的にはポイントとなる分野、施策で地域を引っ張る人材、核となるリーダーを見つけ、うまくコラボレーションしながら各施策を戦略的に展開できればよい。

- ・木更津地区の特徴として、学校が非常に多いことから、高校卒業生の年間就職数が700名ほどある。この700名の生徒を地元の企業に就職させ、木更津の活性化に少しでも貢献できるように考えており、地方創生でもそういう策を推進していただきたい。
- ・東京で働く人に対して、木更津に住むメリットをアピールして人を呼び込むべき。家賃等も安く、アクアライン高速バスで通勤ラッシュにも無縁。例えば、30代で楽にローンが組める場所、などのキャッチコピーができればかなり魅力的である。
- ・潮干狩りや花火、アクアラインマラソンなど良いものがたくさんある。もっと木更津の良さをPRし、人を集めることが必要である。
- ・東京に一番近い田舎など、観光で売なのか、産業で売なのか木更津のアピールポイントを明確にしたほうが良い。
- ・江戸時代からの文化都市、また、昔からの教育都市の地として戦略を練って頂きたい。市内には高校が多く、特に駅はいつも大勢の生徒であふれている。例えば演劇を見られる場所や、若手芸人が発表できるような場があれば、若い人も集まってくるのでは。
- ・千葉には能楽堂がない。市の施設を使ってある程度の能楽堂ができればアピールになるのではないか。
- ・かずさAPについては、インフォメーションテクノロジーの集積を図って頂きたい。
- ・木更津の名産である「のり」とのコラボで、のりパウダーなどの開発で既に連携をしている。今後も、また果物の分析等で熟度を確認するなど、農業関係でも協力していけるのではないかと考えている。
- ・国では今回の地方創生についてCOC+[地(知)の拠点大学による地方創生推進事業]の計画も位置付けている。来年度、木更津を活性化するような人材を育てるCOC+を実施したいと考えている。是非アイデア等頂ければありがたい。
- ・木更津で育った子どもが、木更津で安心して働くことができる環境を作る必要がある。ワークライフバランスを良くするためには、職住近接が重要。木更津のブランド力を1つでも2つでも作ることが大事。
- ・木更津は高校や大学が多く有り、若者が多く集まる。成長して、木更津のことを考えてくれる若者を育成していくべき。
- ・女性が働きやすい環境を整える必要がある。男女が共に働いて、市内に住むことは、木更津市の発展にも繋がる。

- ・東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、総合戦略に盛り込むべきことが無いか検討をして頂きたい。
- ・富来田地区の空き家に都心からの移住者が増えてきていると感じている。
- ・富来田地区の地域経済は、経営者の高齢化などにより非常に疲弊している。人口が減少している地域についても考えて欲しい。
- ・農業も高齢化が進行している。放置されている耕作地もある。本市も、地域により人口増、衰退してきている地区が二極化している。全体的に考えて欲しい。
- ・水産業は更に高齢化が進んでいる。就業状況も厳しい。例えば、のりは県の名産品と言われているが、生産者は市内に70人弱である。コストが高いことが原因。また、金田地区内でも地域によって、格差が激しい。
- ・木更津には、米、野菜、養豚が盛んで、色々なものが生産できる。それらを学校給食に使用し、地元の活性化につなげる。
- ・金鈴塚古墳から出土した文化財などを整理して観光に結び付ける。また、木更津にしかない、土産物をつくる。
- ・地元企業が衰退している。商店街など人通りが少ない。木更津の良さを行政と地域が考える必要があると思う。
- ・街なかの衰退している。みまち通りの賑わいが懐かしい。シャッター通りをどのようにして元に戻すかを考える必要がある。街なかの活性化や女性の集まれる場を作って欲しい。
- ・定住の話をする、東京湾周辺の2200万世帯をどう木更津に呼び込んでいくかが重要。木更津は文化的、歴史的にも非常に魅力はあるが、情報発信力が弱い。私どものメディアを活用して、繋ぐ役割になっていきたい。
- ・人口の流出をどれだけ防ぐことができるかが大事である。近隣市町村と人口取り合い合戦に勝てるかどうかが大変である。
- ・木更津市は、海あり山ありでたくさんの資源がある。学校単位の枠を超え、子どもたちに体験・育成できる取組みを実施してほしい。